

わたしができるいじり

一宮市立浅井北小学校 三年

小澤 美友



わたしは、認知症の人がいる老人ホームに行きました。認知症は、六十五才以上の人で、六人に一人、約四百万人いると言われています。どんな症状があるかというと、脳の障害が原因で記憶や知能の低下があるそうです。

わたしが、どうしてこの老人ホームをえらんだかというと、認知症のおじいさんおばあさんを元気にしたかったからです。

しせつへ行くと、みんなで指の体そうをしていました。わたしもさんかしました。

歌に合わせて指を一本一本曲げたり、じゃんけんをしたりしました。はじめはふつうのじゃんけんをしていましたが、

「次は負けるじゃんけんをします。」と、しせつの人が言いました。

負けるじゃんけんは、相手がパーを出したら後からグーを出します。

わたしは、はじめてだったのでとてもむずかしかったです。どうしてこんなじゃんけんをするのかと思って聞いていると、

「人は勝とうとすることはかんたんにできても、わざと負けようとするのはむずかしいです。むずかしいことをするのは脳にとってもよいことです。」と、話していました。

次に、おり紙をおってプレゼントしました。

おり紙も書きました。うれしそうにしている人も、ねている人もいました。うれしそうにしてくれると、わたしもうれしかったです。ねていてへんじがなくとも気にしません。なぜかというと、「子どもといっしょにいるだけで、脳にいいですよ。」と、言われたからです。わたしは役に立ててよかったです。

認知症をよくするためにはどうしたらいいのか、調べてみました。とても大切なことは四つあります。

一つ目は、話し相手がいることです。もし返事がなくても話しかけることが大切です。

二つ目は、笑顔です。次のような実けんがありました。笑顔、なき顔、おどろいた顔、おこった顔などの写真を見せて、認知症の人に「写真の人はどんな気持ちですか？」と聞くと、おどろいた顔、おこった顔は、あまりわからないけれど、笑顔は多くの人がわかったのだそうです。だから笑顔でお話しよう

思いました。

三つ目は、やさしくふれることです。会話ができなくなっても、手をにぎるなどすると安心するそうです。

四つ目は、感動することです。いっしょにあそんでよろこんでくれた人や感動してないてくれた人がいました。脳に少しでもよければいいなと思いました。

おじいさんおばあさんが笑顔になってくれたら自分もうれしいです。元気にしてあげたくて認知症の人がいる老人ホームに行ったけれど、わたしも楽しかったです。また行きたいです。